

創立70周年記念式典を挙



小森会長

1937年(昭和12年)に東京印刷製本機械製造工業組合としての設立から、70周年を迎えた(社)日本印刷産業機械工業会(小森善治会長)は5月30日、東京の虎ノ門パストラルホテルにおいて「創立70周年記念式典・祝賀会」を開催した。会場には、各界からの来賓、関連団体代表、会員企業らおよそ300名が出席し、70周年という節目を祝うとともに印刷産業のさらなる飛躍を誓い合った。また式典では、経済産業大臣表彰、同製造産業局長表彰、工業会会長表彰、同優良従業員表彰が行なわれ、永年にわたり印刷産業の振興発展に貢献したその功労を称えるとともに、今後のさらなる尽力に一層の期待が込められた。

「新しい躍進」へ、その第一歩踏み出す

開式に先立ち挨拶に立った小森会長はまず「振り返ると、バブル経済崩壊後、生産高が大幅に減少し、大変厳しい状況が続くなど幾多の困難があったが、このたび70周年を迎えることができたのは、会員企業のためまね努力と多くの皆さんからのご指導、ご高配のお陰である」とあらためて関係各位に感謝の意を述べるとともに創立以来の会員諸先輩の功績と印刷産業にかける情熱に対し敬意を表した。

そして日本経済について「わが国の経済環境は大きく好転し、当業界の平成18年の生産高も前年比9.3%増の4,200億円となっているが、国内の設備投資が本格的な回復に至らぬ中、海外への輸出が大きく伸びたことが要因である」とその景気動向を分析した上で「当会としても認識を新たにし、時代に対応した会の運営や会員が期待する事業活動を的確に行なうことでその活動価値を高め、一層効率的な取り組みを行なう必要があると考えている。今後、工業会が一丸となり関係官庁、関連諸団体をはじめ皆さんの支援を頂きながら諸課題を解決し、印刷産業機械産業のさらなる発展を実現できると確信している」とこれからの同会の果たす役割と目的を明らかにするとともに、今70周年がそのための「新しい躍進」の第一歩であることを宣言した。

印刷産業機械業界物故者に対する黙祷が行なわれたのち、来賓を代表して2氏から祝辞が述べられ、まず経済産業省製造産業局長の細野哲弘局長は「この業界の特徴は文化を支える産業であること。さまざまな媒体が存在するなかで、やはり印刷なくして日本の文化は語ることはできない。そういったなかで工業会の皆さんが果たしてきた役割は非常に大きい。今後は国際化、省エネなど諸問題が山積しているが、我々も一体となって、それら課題解決に向け積極的に協力していきたい」とさらなるグロー



バル化に向けた努力を呼びかけ、そのための協調を確約した。

続いて日印産連・藤田弘道会長からは「昭和12年の創立当時は、日中戦争勃発により輸入制限による長期資材の不足など、極めて困難な時代であった。その厳しい情勢化のなか、我々、印刷業界のため印刷関連資材を提供してもらったなどその努力には非常に感謝している」と先人達の功績に対し深い敬意を表したうえで「以来70年の永きにわたり、創立の精神を受け継いでいる会員企業においては、品質、性能の向上、技術開発に積極的に取り組み、我々印刷産業の各時代における最新鋭の機器を提供し印刷業界を支え続けてくれた。印刷産業はおかげさまで、出荷額が約7兆2,000億円という内需型産業として日本産業界の主要業種の一角を占めるまでに発展した。これも我々のパートナーである貴工業会ならびに会員企業のお陰である」とこれまでの協力に対しあらためて感謝の意を述べた。

このあと表彰式に移り、経済産業大臣表彰として同会副会長・前会長の石田明氏(大日本スクリーン製造(株)会長)、同会長の小森善治氏(株)小森コーポレーション社長)、同副会長の宮腰巖氏(株)ミヤコシ社長)の3名をはじめ、経済産業省製造産業局長表彰受賞者4名、工業会会長表彰(経営功労者)受賞者25名、工業会会長表彰(優良従業員)受賞者67名に表彰状が贈られたのち、記念式典が閉幕。

午後6時から記念祝賀会が催され、冒頭、挨拶に立った石田明副会長は「私どもが生産している機器は、今後も印刷産業の発展に無くてはならない需要製品であり、その果たすべき使命と役割には、相当大きなものがあり、また業界からも期待されている」と70周年をスタートとしたさらなる飛躍に向けての抱負を述べた。



石田 明氏



小森 善治氏



宮腰 巖氏

続いて来賓を代表して経済産業省製造産業局長産業機械課の高橋泰三課長から「この70年には、さまざまな困難があったと思うが、その難局を乗り越え今日に至ったことに対しあらためて敬意を表する。今年は何年にも一度のIGASの年である。日本の誇る最新の印刷関連機器を世界に向けて発信し、グローバルなビジネス展開につなげてもらいたい」とIGASを起点とした業界のさらなる進化への期待の意を述べ祝辞とした。

このあと乾杯に移り、全印工連・浅野健会長が登壇し「現在、日本の印刷産業は、国際的にも世界の最高水準に達しており、我々もそれを誇りにしている。その影には、皆さんの努力のお陰であると認識している」と感謝の意を述べ、「おめでとう」の発声で祝宴となった。